

第3回 第6次豊橋市総合計画策定市民会議
議事要旨

日時 令和2年2月10日(月) 13:30～15:45
場所 豊橋市役所 災害対策本部室

1 「安心して子育てできる環境づくり・特色ある教育づくり」に関する意見

主に資料2を踏まえ、各委員の所属団体での活動経験や日常生活で感じたことを基に、豊橋の「安心して子育てできる環境づくり・特色ある教育づくり」に関して各委員より発言

○委員

- ・ 今の小学生は習い事、宿題が多く、忙しい。親も送り迎えなどが負担になっており、習い事が校区内で完結できればと思う。
- ・ 学校を拠点とした地域づくりについて、報酬をもらわないボランティアでの対応には限界があると思う。市の財政が乏しくなる中で、行政サービスとして対応するのも無理があると思うので、民間企業が入って利益を出しながら地域貢献する持続可能な仕組みを作っていく必要があると考える。

○委員

- ・ 育休がとれる社会にすることが大切だと思う。男性も子育てできる環境にするべき。多くの企業で育休を推進しているが、収入が減ることになるなど、実際には育休を取得することが難しい環境にあると思う。
- ・ 資料2の取組例に、女性のUターン優遇施策とあるが、今住んでいる女性が出ていかないう、まずは住んでいる女性を優遇すべきであると思う。
- ・ 女性の社会進出について、働いている女性の志向として、結婚し、子育てなどで仕事を離れた場合に、復職することがなかなか難しいので、収入の維持、職を優先するために、結婚をするのが遅くなっている。子育てなどで離職した女性が復帰しやすい環境を確保すべきだと思う。
- ・ 放課後児童クラブの活動について、公共施設の活用などがしやすいような仕組みを作る必要があると考える。
- ・ 子どもの医療費無償化について、子供のいる家庭の負担を軽減するため、無償化の年齢を高めるべきだと考える。

○委員

- ・ ひとり親世帯は子供がいても収入のために働くことが必要で、子どもと接する時間が乏しくなり、子育てがうまくいかないことが多い。共働きも同じで、昔は、出産時は女性が職をやめて育児に専念し、子どもに手をかけてきたが、今は収入を得るために早く働き始めなければならないことが多い。育児休業などの制度があるが、中小企業などでは思う通りに休みが取れず、自分の所得を考えて複数の子どもを設けることは難しいということになり、望んだ数の子どもを持ってない現状がある。
- ・ 子育て世帯を支援し、より子どもに目を向けられるようにする必要がある。収入の不安があると、子どもに目を向けられなくなり、児童虐待などにつながってしまう。

○委員

- ・ 自分の所属団体でも結婚している人が少なくなった。結婚できなくなった理由を考えると、出会う場がない、余裕がない、遊んでいた方が楽しいという声を聞く。
- ・ 小学校の部活動が無くなっていくが、子どもの部活の輪から、親世代の人間関係も広がっていくなど、部活動は地域の人間関係の形成の場としての役割も担っており、なくなってしまうのは問題だと思う。

○委員

- ・ 育休の取得を促進することよりも、仕事が午後 6 時に終わって家に帰れるなど、ワーク・ライフ・バランスをよくする企業風土を形成する仕組みづくりが行政といっしょにできるとよい。
- ・ 子どもがほしくない人が増えているというデータがある。日本の子育て支援は決して充実していないわけではないと思う。その中でなぜ少子化になっているのかを掘り下げて議論しないといけない。
- ・ 結婚せずに子どもを産む人もいる。結婚している方への子育て支援は充実しているが未婚の方の子育て支援の充実も必要ではないか。
- ・ 親として、子どもをどう導いていけば良いか不安に感じることもある。学校では教えてくれないことなので、必要な知識をえることができるような場がもっと必要だと考える。子どもの支援だけでなく、視点をかえて子育てをする親への支援も必要ではないか。

○委員

- ・ 子どもも社会を担う一員として捉え、子どもの権利を尊重するべきと考える。今の子どもたちが生きづらさを感じているのは、自己肯定感が持てないことが原因で、子供たちが自己肯定感を育む環境づくりが重要だと思う。指導、命令、ルールなどで縛るのではなく、子供に権利を与え、失敗しながらも挑戦できるような環境を整える必要がある。そのためには我々大人も子供の権利について学ばなければならない。

○委員

- ・ トヨッキースクールなどの取り組みはよいと思った。理想の形だと思うが、ボランティアだけでは限界ある。トヨッキースクールを将来広げていくという中で、ボランティアだけに頼るのではなく、専門家などにお金を出して委託していく形にすべきだと思う。
- ・ 放課後の過ごし方として、すぐに家に帰るのではなく、学校で宿題をしたり、運動をして体力をつけられるようにすべきと考える。
- ・ 児童クラブを地域の人と話し合える機会としたい。関わっている児童の親からからは、育休が終わってしまうと平日は活動に参加できず、地域との接点が無くなってしまいうという話を聞く。土日に子供と一緒に地域の人と触れ合えるような機会が作れるとよいと考える。

○委員

- ・ トヨッキースクールは良い活動だと思う。学校を拠点に地域コミュニティを育むという形はよいが、ボランティアでは長続きしないと思う。子ども同士のコミュニティの中で、子どもが育つ仕組みも大切だと思うので、活動を支援していく必要があると思う。

○委員

- ・ 今回のテーマの考え方について、今は産めよ育てよという時代ではなく、子どもを増やせない時代。少子高齢化対策というより、どちらかといえば落伍者を増やさないで、育てていく環境づくりを前提に考えるべきだと思う。
- ・ 学校を拠点とした地域づくりについて、都市計画の視点では、福祉面や子育ての観点から見るとよい取り組みだと思う。モデル地域を設定して進めるべき。校区は都市計画でもコミュニティの単位となっており、学校中心のまちづくりは理にかなっているのでよい取り組みだと思う。
- ・ 子どもの貧困について。その家庭に生まれたことで起こる、子どもにはどうしようもできない不条理なことがあると思う。支援体制を充実させるべきだと考える。
- ・ イマージョン教育について、外国人の教員の授業を日本人の教員がサポートする形では効果が薄いと思う。外国人教員に完全に任せるのが理想だが、すべての授業を外国語で対応できるだけの外国人教員がいるのかが問題。通常の授業は日本語で行い、学校終了後に外国人教員に外国語を学ぶ授業をやってもらった方がよいと思う。豊橋市はブラジル人が多いので、英語にこだわらず、彼らからポルトガル語を学ぶのもよいと思う。

○委員

- ・ 職員が産休・育休で休んでも問題ないような体制を整える必要がある。代替の職員をその場しのぎで雇うのではなく、会社を大きくするチャンスととらえ、人を雇っていないと会社はよくなると思う。

- ・ 有償ボランティアをスタンダードにすべきだと思う。活動団体に対する補助金の支給制度などもあるので、そうした支援制度の仕組みをうまく活用していくべき。
- ・ 児童虐待の相談件数が増えたのは、相談できる場や機会が増えたことも要因だと思う。虐待が発覚した親の多くは、今以上にひどくなる前に見つかってよかったと言っている。困難な状況にある親を見つけてあげることが大切だと思う。
- ・ 児童健診制度は3歳で終わってしまうが、5歳児健診まで行うべきだと思う。また健診にこない、参加しない人についてはきちんとフォローする仕組みも必要だと思う。
- ・ 児童虐待に関する課題認識について、どのような対策をしていくのかをもう少ししっかり検討していくべきだと思う。
- ・ 学校の空き教室について、子どもたちが学校にいる時間に、地域の様々な人と関わることのできる仕組みが必要ではないか。学校の新しい使い方をしていくべきだと思う。
- ・ 説明された豊橋市の取組みについては初めて知ったことが多い。子育てが終わるとこうした子どもに対する取組みを知る機会がなくなる。高齢者などにこうした取組みを周知すべきだと思う。

○委員

- ・ 理想像について、女性が充実した仕事ができ、いきいき子育てできる生活を送れていることが理想と考える。出産後も同じポジションで仕事ができるのか、職業を変えないで復帰できるのかといった心配を持つ声を聞く。共働き世帯でもしっかり子育てができるような支援の充実が必要と考える。
- ・ スクールソーシャルワーカーについて、経済的、精神的に困難を抱える親と子供を支援するため、相談したいと思ったときにすぐに相談できるような環境を整える必要があると考える。
- ・ 学校の空き教室をうまく活用して、美術・音楽などの、子どもたちの才能を引き出して伸ばしてあげられる教育ができると良いと思う。

○委員

- ・ 男性の育児参加ができる社会にするため、仕事の内容を変えていかないといけないと思う。男性が家に早く帰れるようにすべきだが、育休、時短などに対応するため、職員の補充を考えたときに、なかなか働き手がないという問題がある。
- ・ 虐待について、虐待が起きる前の支援が大切。保健師、民生委員などにより支援をしていただいているが、妊娠中からリスクの高い人への支援、出産直後のリスクを支援できる仕組みを考えることが必要だと思う。
- ・ 妊娠について、性教育など、ライフスキル教育について、正しい知識を伝える仕組みの充実が必要。望まない妊娠が貧困、虐待につながる。

- ・ リスクのある家庭について、保育園で子どもをあずかることでの支援が考えられる。0-1歳の子どもの受入を想定しながら施設の改修を進めているが、環境を整備しても保育士が不足しているという現状がある。
- ・ 屈託なく笑う、子どもらしい子どもが減ってきたと思う。意識して体を動かす遊びをさせていくことが重要だと思っている。体を動かすことでおなかが減り、食べることで体が強く大きくなる。身のこなしによるケガの防止、心肺機能が育つなどにもつながる。朝ごはんを食べてこない子どもが増えてきた。スマホアプリでの育児も増えてきた。これが良いのか確認していきたい。良いおもちゃ屋、産婦人科が減ってきたという声も聞く。妊婦の最初の時期の健診料金が高いと聞く。子育て・教育を取り巻く様々な問題に対応していく必要がある。

○委員

- ・ 今回のテーマの理想像について、大人になって、就職して、普通に結婚し、子どもを持つということが当たり前にできることが理想だと思う。
- ・ 男性の育休取得がなかなか進んでいない。育休が取れるように会社の体制を整えることが必要だと考える。

○委員

- ・ 子育てなどの計画は、どこの都市でも横並びで大きな差ができない。共感をもってもらえる特色をだせるようにしていくことが大切。
- ・ 豊橋では地元の方は、2・3世帯居住などで親族によるサポートが手厚いが、外から入ってきた単身世帯・夫婦世帯など、親族のサポートが望めない人に対する支援充実が必要だと思う。
- ・ 教育について、学校・校区がどうあるべきか考えたい。1学年1教室の学校がある一方でマンモス校がある。普遍的な教育をするためには学校の再構築が必要ではないか。自己肯定感という話があったが、一定数の子どもがいてお互いのかかわりの中で自己肯定感が育つと思うので、適正規模の学校づくりが重要だと思う。
- ・ 地域づくり、コミュニティについて、地域活動の負担軽減を進めることも必要。子育て世代には、PTAなど負担ではないのか。子どもが減っているのに仕事は減らない。移住者には見えない負担もあるのではないかと考える。

○委員

- ・ 外国人の子育てについて、仕事が忙しく、子どもとのスキンシップができない家族、生活スタイルが増えてきている。日本語ができないことによる保育園とのトラブルもあり、外国人が運営している託児所を利用している人もいる。受入れ人数が多く、環境が良くない施設もあるが、ほかに支援の当てがなく、そうした施設に頼らざるを得ない状況にある。

- ・ 保育士は、自分が働いている保育園に自分の子どもを入れられないと聞く。その結果、育児ができないことを理由に仕事を辞める選択をしてしまうのは残念だと思う。

○委員

- ・ コミュニケーションを育むには、地域の人との接点を増やす仕組みが必要。地域の活力ある高齢者に活躍してもらうなど、支援を必要とする人と活躍したい人との需要と供給をうまくマッチングさせる仕組みが必要と考える。
- ・ 共働きを進めるには、女性の家事労働の軽減が必要だと思う。男性の協力が得られればよいが、仕事が忙しくて難しいので、家事労働の軽減につながる企業と提携して、食事、掃除、送迎などとのクーポン化など、企業との連携による支援の仕組みが必要ではないかと考える。

○委員

- ・ 地域によっては住民の約6割が自治会に入っておらず、大半の人が広報や回覧を見ていないような校区もある。子供が成長すると、自治会に入るメリットがないからと退会する人もおり、そのような状況で、地域で連携して何かをするのは難しいと思う。
- ・ ごみステーション、公園、街路灯の管理など、自治会が担っていることをこの先どうしていくのか。公園の管理では、樹木の剪定をするだけで見通しが良くなり、防犯につながる。自治会で管理をしていかないといけないと思う。
- ・ 部活の廃止について、子どもが外で遊べる環境づくりは重要だと思う。トヨッキースクールは学校との連携が必要で、最低限開催しなければならない回数も決められており、1回9,000円の補助があるが、地域の負担も大きいのでなかなか広がらない。

<欠席委員等意見>

- ・ 出産から1～2歳までの保育が安心して受けられる環境が現在の社会では整っていないと思う。2人目、3人目の子育ては核家族では厳しいのが現実だとおもう。産後ケアや子育てケアをすべての世帯が受けられるような体制を整えていく必要がある。
- ・ 小学校の部活動廃止に向けて、希望するすべての子どもが児童クラブを利用できるような体制の整備と、地域の特色を生かしたトヨッキースクールの開催が急務だと考える。トヨッキースクールは現在市内10校区でしか開催されていない現状があり、早急に取り組んでいかなければならないと考える。
- ・ 資料2の<方針>の1つ目「子どもを産み育てたくなるまちづくり」の文章の中に「母親の育児負担を激減させ～」とあるが、現状では難しいと思うので、「母親に偏っている育児負担を軽減し」のような表現の方がよいと思う。同じく<方針>の4つ目「地域ぐるみで子育てや教育ができるまちづくり」の文中に「地域住民の校区愛を

活用して」とあるが、「活用して」では行政が住民を利用しているような印象を受けるので、表現を工夫した方が良いと思う。

- ・ <方針> 4の「江戸文化と近代ヨーロッパ文化を融合させた近未来吉田藩文化」という表現は具体的なイメージがわきづらい、「江戸時代にあった寺子屋のような」など平易で誰でもわかるような表現に改めたらどうか。